

令和5年度 刈谷市共存・協働のまちづくり推進委員会 第3回夢ファンド部会(公開審査会) 記録

日時 令和6年1月13日(土)
午後1時30分～午後4時10分
場所：刈谷市民ボランティア活動センター

出席者

団体名・役職等	氏名
愛知淑徳大学 助教	熊澤 友紀子
刈谷市商店街連盟 専務理事	柘植 祥史
刈谷市ボランティア連絡協議会 会長	矢田部 寿子
NPO 法人刈谷おもちゃ病院 理事長	三輪 恒雄
防災ママかきつばた 代表	高木 一恵
一般公募	石田 彰宏
刈谷市民ボランティア活動センター センター長	米田 正寛

欠席者

団体名・役職等	氏名
刈谷市女性の会連絡協議会 会計	加藤 文子

事務局

所 属	補 職 名	氏 名
市民活動部市民協働課	協働推進監兼市民協働課長	渡部 貴美子
市民活動部市民協働課	課長補佐兼協働推進係長	小原 崇照
市民活動部市民協働課	主事	内藤 佑佳
市民活動部市民協働課	主事	前川 和奏
NPO法人ボランタリーネイバース	理事・事務局長	遠山 涼子
NPO法人ボランタリーネイバース	事務局スタッフ	加古 麻理江

1 開会・あいさつ

- (1) 定刻になり、市民協働課課長補佐兼協働推進係長が開会を宣した。
- (2) 協働推進監兼市民協働課長あいさつ

2 公開審査会

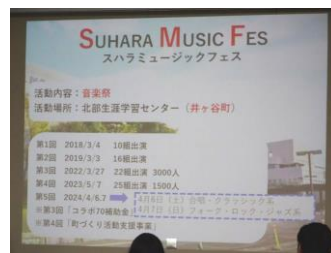
(1)まちづくり活動支援事業

1 SUHARA MUSIC FES 実行委員会／「第5回 SUHARA MUSIC FES」

ア プレゼン概要

- ・音楽祭を2日間に分けて北部生涯学習センターで開催する。4月6日(15組100名)、7日(15組80名)計30組180名の参加を予定している。昨年度は、屋内・屋外を会場に開催した。楽しみにしている人が多くおり、定期開催できることを目指している。

- 音楽を媒体にした地域の活性化を目標に、発表の場、集いの場、憩いの場となることを目指す。
- 今後の課題は、開催を定着すること。継続のためにプログラムを充実させるため、社会人バンド、小中学校ブラスバンド、愛知教育大学サークル・附属高校合唱部、刈谷市音楽協会など刈谷市内外からの出演者の他に、NPO 法人幸縁によりグアテマラ現地からのオンラインで参加いただいた。
- 井ヶ谷町ホームページで紹介の他、町内回覧板で告知、市民だより、ホームニュース、KATCHで告知の他、当団体ウェブサイトでの参加者募集・紹介を行う。
- 市民の歌「みどりの風に」の復活提案を継続する。盆踊りの定番として定着するよう、民謡愛好会とともに紹介を行う。
- 井ヶ谷地区には、映画監督・岩松あきらさん、マジシャン・向井健人さんなどの人財や、洲原公園、小堤西池、愛知教育大学、刈谷ハイウェイオアシスなど地域の財産がある。地区の人財と合わせて、刈谷北部の魅力を伝えていきたい。
- 春の桜まつりと SUHARA MUSIC FES を関連イベントとして共に開催していくことを考えている。
- 集まった人が音楽を通じて微笑みあえる楽しい企画を続けていきたい。



イ 質疑応答

- 委員：30組の出演者は、継続した参加か、新規の参加か。
- 団体：新規の参加を目指している。だが、集まらない場合もあり不足した場合は、声をかけ継続して参加してもらっている。2～3割が継続の参加である。愛知教育大学のサークルの場合は、卒業によりメンバーは入れ替わり参加している。
- 委員：来場者が減少した理由は？
- 団体：1・2回目は400～500名。3・4回目は屋外のイベントを追加してキッチンカー・野外ステージを設けた。3回目は桜の季節で天気もよく3千人参加があったが、昨年度は、雨天であったため企画内容は同じであったが減少した。
- 委員：若手音楽家の育成について。大学生は卒業によりメンバーの入れ替わりがあると説明があったが、その後活動に参加協力したり、音楽活動として新しいステージができたといった変化はあったか。
- 団体：愛知教育大学のサークル「かきつばたの民」がボランティアで参加してもらっている。卒業後もボランティアで参加するなど、音楽イベントを通して地域の活動に関わるようになってきている。
- 委員：幅広い方に周知ができ、中部・南部からも集まるイベントになってもらいたい。コロナ禍では活動を行いにくい場面もあったと思うが、継続いただきたい。
- 委員：音楽会は北部を中心に行っているが、南部での活動を展開することは考えているのか。
- 団体：南部は駅や公共施設などが多数ある。出演者は市内から幅広く参加してもらっている。
- 委員：今後継続していく中で、南の方も参加できるなど告知を工夫いただきたい。
- 委員：予算書に関して、企業の協賛が多い。出演料をもらうことで活動を活性化した事例もあった。今後、継続性に対して工夫はどのように考えているか。
- 団体：アマチュアの活動を応援したいという思いから始めているため、出演料はいただいている。現在は北部地区の企業が中心であるが、広範囲に協賛をお願いしたいと考えている。前回、キッチンカーを呼んだところ、売上がたくさんあった。キッチンカーからは協賛金としていただいていたが、今後は売上の数パーセントをいただくようにしていきたいと思っている。

来場者：刈谷市は地域ごとに歴史があり、地域を絞り活動を行うことは素晴らしい。若手の育成も大事であり、発展型の活動である。

団体：出演者がマスコミに取り上げられれば、集客にもつながる。10年は継続したいと考える。

【委員からの感想】

- ・5回目の開催で規模も大きく継続されている。井ヶ谷地区で活動を積み重ねて継続することで、他の地区、市全域にも波及されるものだと思う。今後も活動を継続してほしい。

2 手品会／マジックショー「マスカレードパレス」

ア プレゼン概要

- ・昨年度、本市にて開催。300名が参加。仮面舞踏会として、参加者も仮装を楽しみながら参加する。
- ・団体の活動は、和をテーマにしたショーや謎解きなどをマジックと組み合わせ、新しい演出で小規模なイベントも開催している。
- ・刈谷市民にマジックを楽しんでもらうことがねらい。子どもたちがマジックを通して、芸術に関心を持つなど、新しい価値観や感受性が豊かになるきっかけとしてもらえたらよい。また、若手のマジシャンにも参加してもらおう。
- ・全国からトップクラスのマジシャンが参加。仮装して参加することは、国内では初めての試みである。
- ・刈谷市は住みやすい街であるため、文化芸術にも力を入れてほしいと考えており、その力になりたい。マジックに取り組む自治体は無いため、オンリーワンを目指せる。「刈谷といえばマジック、マジックといえば刈谷」と思われるよう刈谷市をマジックで盛り上げたい。SNS等で当日だけでなく開催に向けた過程を発信し、ショーまでの1年間を楽しんでもらえるよう企画する。
- ・スポンサーを多く募り、子どもが無料で参加できるようにしていきたい。
- ・会員4名、イベントごとに必要な専門スタッフを募り20名にて運営を行う。
- ・昨年度「AFF2※（文化庁補助金）」を受けて実施した経験がある。※ARTS for the future! 2（コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業）
- ・人のつながりがあって成り立つものだと思う。コロナ禍で活動をやめてしまう人も多くあったが、継続することが大事であり、熱意をもってショー・文化活動を開催していきたい。



イ 質疑応答

- 委員：「ITやネットを駆使した新たな演出」とは、どのような企画か。
- 団体：マジックショーは1日で終わることが多く、改善したいと考えた。SNSを活かして、準備期間も含めて継続的に発信することでイベントまでの1年間を見てもらうこと。また、若手を育成する場面を発信することで、成長の過程をエンタメとして楽しんでもらうことを考えている。愛知県内在住のマジシャンの協力を得て準備を進めている。
- 委員：予算について、チケット代収入が多くを占める。前年度参加は300名、今回の計画は220名予定とあるが、収益を確保できる見込みはあるか。
- 団体：前年度300名のうち、150名分がチケット購入による参加であった。今年度は220名の購入を想定しており、昨年より増やすことを目標にPRに取り組む。また、150名の無料枠はスポンサーがついた場合充てていきたいが、難しい場合はチケットの販売を検討する。
- 委員：スポンサーの見込みは何社か。現時点でつながりのある企業があれば教えて欲しい。
- 団体：昨年度は、知り合いの企業から協賛を受けたが、企業・団体のスポンサーのつながりは弱いと思っており、スポンサーを受けている団体などから話を聞いて取り組みたい。
- 委員：イベントは注目されるメリットがある一方、一過性がデメリットにもなる。小学校や子ども会、他の芸術活動と連携するなど、継続的な関わりを持つ必要もあると思うが、どのように考えているか。
- 団体：昨年度は愛教大の写真サークルの協力を得るなど、個人間での協働は取り組んでいた。団体同士の実績はまだないが、様々な団体と協働することは必要だと思う。

- 委員：AFF2から補助金を受けたと説明があったが、予算書に記載されるべきではないか。
- 団体：昨年度までで補助は終了しており、今年度は申請を行っていない。国の補助金を活用したイベントの実施経験があり、企画から行う体制は整っている。
- 委員：文化として根づいていくためには、子どもたちにマジックを体験してもらうことではないか。その場合は無料で、学校やショーが終わってからの時間でもよい。そのようにして文化体験を広げることも一つの方法ではないか。
- 団体：団体としては、無料で子どもたちが参加できる活動は行っていないが、個人的にマジックカフェを開催しており、子どもたちがカフェの運営を模擬的に体験する場を行っている。団体としても、今後取り組んでいきたい。

【委員からの感想】

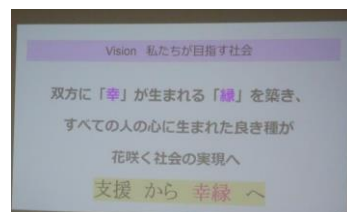
- ・ハロウィンイベントとして皆で楽しめる場として開催することが楽しい。今後も毎年10月にマジックショーの開催を通して、刈谷市をマジックで盛り上げていただきたい。マジックで人生が豊かになったという話も聞く。そのような体験を子どもたちにも伝えて体験してもらえると良い。

(2)NPO法人設立支援事業

NPO法人幸縁

ア プレゼン概要

- ・グアテマラの教育活動を行っている。当団体のビジョンは「双方に“幸”が生まれる“縁”を築き、すべての人の心に生まれた良き種が花咲く社会の実現へ」。双方に良い活動となるように行っている。
- ・2022年に立ち上げ、昨年1回目の補助金を受けて運営体制を整えることができ、刈谷市との関わりを持つことができた。市内外の英語教員との出会い、刈谷市国際交流協会にてイベント、つむぎ場にてデンソーのプロボノのみなさん、英語ボランティアとの出会いが広がった。
- ・「SUHARA MUSIC FES」でのグアテマラからのライブ出演、「市民ボランティア活動センター」では、10月車座講演会にてオンラインでグアテマラの子どもの様子を伝えることができたほか、現地学習塾で活用する文房具寄付を呼び掛けていただき、たくさんの協力を受けることができた。
- ・井ヶ谷地区での回覧板での告知を通じて、地域とのつながりもうまれた。
- ・富士松東小学校6年生との英語交流を実施、また2月には住吉小で予定するなど、市内の小学校と交流を進めている。全国では延べ900名ほどの子どもがグアテマラの子どものたちとつながった。
- ・このほか、奨学金事業として里親サポート、昨年開校した現地学習塾『アカデミア100(シエン)』などに取り組む。
- ・次年度の大きな取組として、現地スタッフのパネッサを招致するプロジェクトを愛知教育大学の先生、岐阜聖徳大学の先生と3団体が連携して進める。日本の教員志望の学生にとってもよい機会となるよう取り組む。
- ・地元に根強く貢献できるよう、Think Globally Act locallyをテーマに活動する。



イ 質疑応答

- 委員：なぜ、刈谷市とグアテマラなのか。
- 団体：自分の人生で出会った人を大事にしたいと思っている。世界には様々な課題があるが、すべてに取り組むことはできない。それぞれの人が出会った課題に真摯に取り組むことが大事である。刈谷市で育った恩返しをしたいと思っている。グアテマラについては、青年海外協力隊として派遣されたことがきっかけである。自分自身の人生でグアテマラに恩返しをしたい。刈谷市民

全員ではなくとも、活動に出会い、共感した方がグアテマラとつながったり、他の国や地域への想いを馳せたりするきっかけとなるとよい。

委員：英語教育を行うことについて、日本とグアテマラは英語が母語ではない。母語でない者同士の交流をどのように取り組まれているか。

団体：日本では英語教育が求められている。日本語だけではなく、英語を自分の言葉として伝えられるよう英語を使う機会が増えると良い。グアテマラは、スペイン語圏ではあるが、仕事が無いことから貧困がある。現地では仕事を生み出すことができない。英語を学ぶことで、オンライン上で仕事を得るなど将来の可能性が広がり、外への世界が広がると考える。

【委員からの感想】

・2年前に市民ボランティア活動センターへ、NPO を作りたいと相談があった。その後、NPO 法人を立ち上げ、今年1年刈谷市内での活動を展開されたと報告を聞き驚いている。文具の寄贈を呼び掛けた際には多くの寄付が集まった。今後、これまで関心が無かった層の協力も得られるよう、掘り起こしも大事な活動の一つである。さらに多くの刈谷市民にも知っていただけるとよい。息の長い活動となるよう応援したい。

3 結果発表・全体講評 於：市民ボランティア活動センター

(1) 結果発表

まちづくり活動支援事業（基準点：12.5点）

発表順	団体名	事業名	審査点	会場点	合計点	採否
1	SUHARA MUSIC FES 実行委員会	第5回 SUHARA MUSIC FES	20.71	—	20.71	採択
2	手品会	マジックショー「マスカレードパレス」	18.57	—	18.57	採択

NPO 法人設立支援事業（基準点：15点）

発表順	団体名	審査点	採否
3	NPO法人幸縁（しえん）	21.57	採択

- ・審査結果については、後日団体あてに郵送するとともに、市のHPにも掲載する。
- ・交付申請・決定は来年度4月以降に手続きを行う。

(2)全体講評(審査委員長)



- 皆さん、素晴らしい発表をありがとうございました。
採択おめでとうございます。

- かりや夢ファンドは、刈谷のまちをよくすることを目的に、市が補助金を用意することで、行政に代わりまちづくりに取り組む団体を応援するプログラムである。審査を通じて、申請内容が刈谷のまちにどのように役に立てるかという視点で議論を重ね、本日直接お話を伺えてよい機会であった。
- 全体として、結果の通り点数に差はうまらなかった。北部で活動する団体が中心であったため、南部で活動する団体も活躍を期待したいと意見があった。

(個別団体講評)

• SUHARA MUSIC FES 実行委員会

刈谷市は南北に広い。長く活動を続けて、北部の名物として、市全体を巻き込む活動へ進めていただくためにも、南部も関われる工夫をいただけるとよい。

また、企業の協賛金が収入に占める割合が多いため、補助金の活動を通してお金を集めるしくみづくりも検討いただきたい。北部といえばミュージックフェスと地域の方に思っていただけのように、継続して取り組んでいただきたい。

• 手品会

国際大会のチャンピオンである代表ご自身の専門性を活かして、地域に貢献する想いに打たれた。

「刈谷と言えばマジック、マジックと言えば刈谷」は、ビジョンとしてよいキャッチフレーズである。

若手マジシャンの育成は、結果が出るまで時間がかかるものである。団体の活動は始めたばかりで、個人の活動との整理は必要であるが、これからの期待も含めて審査した。

学校との連携は難しい面もあるが、子どもたちに無料でマジック教室をするなど、学校と地域をコーディネートするしくみを活かしていただけるとよい。

• NPO 法人幸縁

刈谷市に本部がある国際協力団体は数が少なく、とても貴重な存在である。だが、海外支援を行う団体は市民からは活動が見えにくい面がある。また、刈谷市におけるニーズを把握してもらい、それに見合った活動をしてもらおうと良い。

英語が第二言語である日本とグアテマラの子どもたちが、オンラインを活用した国際交流を進められるよう、学校と地域をコーディネートするしくみにより、刈谷市内小中高での海外交流の活動を進めていただきたい。

- 短いプレゼンや申請書では語りきれない想いや経験、これからやってみたいことは多くあると思われる。2024年度の活動現場へ直接見に行くことも検討したい。皆さんの活動の成功をお祈りします。